



2015-16 年度テーマ



世界へのプレゼントになろう

■会長	松本 茂	■職業奉仕委員長	増田 博和
■幹事	田淵 満博	■社会奉仕委員長	小栗 学
■SAA	保田 孝司	■国際奉仕委員長	岡崎 利久
■クラブ奉仕委員長	竹葉 良仁	■新世代奉仕委員長	保田 孝司

■例会日：毎週木曜日	12:30~13:30	■事務所	〒788-0003
■例会場：宿毛市幸町	秋沢ホテル		高知県宿毛市幸町 6-43
URL	http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/		TEL 0880-63-3416
E-Mail	sukumorc@mb.gallery.ne.jp		FAX 0880-63-3417

例会報告 第2484回 平成27年8月27日(木曜日) 天気：晴れ

- 例会司会：保田 SAA
- 開会点鐘：松本会長
- Rソング：奉仕の理想
- ゲスト：元宿毛市議会議長 中平富宏様
- ビジター：浦田宏一様(中村RC)

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 松本会長

8月24日(月)宿毛マラソン実行委員会に私の代理で西田会員に出席をして頂きました。
議案として宿毛マラソンのサブタイトルは、「風薫る春の宿毛路 いっちきちもんちきち ペアリレーマラソン」に決定。大会は平成28年4月16日(土)雨天決行で開催。ゲストは安田大サーカスの安田団長とう~みさんが来られるそうです。

■幹事報告 竹田企画委員長

- ガバナー事務所より：
公式訪問のお礼状
9月のレートのお知らせ(1ドル=124円)
米山協議会・懇親会開催のご案内
- 地区財団事務所より：
2015-16年度地区補助金支給の決定について
(800ドル=99,200円)
- 米山記念奨学会より：ハイライトよねやま
- 米山梅吉記念館より：館報
- 中村・四万十RCより：週報

欠席届 15名

■委員長報告

西田カバナー補佐

7月は高知北RCに松本会長同行、須崎RCに東会員同行。
8月は四万十RC、中村RCに筒井会員同行、仁淀RCに竹葉副会長が同行していただきました。
ありがとうございます。
今後の予定は10月9日に高知西RCは竹田企画委員長が同行、13日に高知RCは高瀬会員が同行の予定となっておりますので宜しくお願いします。

竹葉副会長

50周年記念事業会計報告

■プログラム 竹田企画委員長

元市議会議長 中平富宏様



本日はお招きいただきありがとうございます。
本日は宿毛市の未来についてお話をしたいと思います。
私は昭和43年宿毛市宇須々木で生まれ、父は水産加工の会社を経営。
当時は祖父も元気でハマチの養殖をしていました。

三世代が同じ敷地内で生活をし親戚や近所の方々が大勢出入りする賑やかな環境の中、幼少期を過ごしました。

当時の宿毛市の生活水準は決して高くはなかったと思います。

昭和52年には真丁のアーケードが完成し次から次へと色々なお店が出来、子供ながら未来に明るい、そんな町のように自分達の目には写っている宿毛市だっと思っていました。

昭和62年宿毛高校を卒業し県外の大学に進学又は県外に就職する生徒がいましたが、結構宿毛市に残って就職をし、中には新しい事業を始める人もいました。

大学卒業後は県外で就職をしましたが、中核工業団地の分譲も終わり各企業が宿毛市に進出に伴い多くの友達が大阪、東京から宿毛市の帰って来たのを覚えています。

私自身も宿毛市に帰って来たい思いが強く平成8年に帰って来ました。

色んな事をやりたい思いで帰って来ましたが、家業の手伝いをする中で感じたことは、宿毛市の経済は落ち込み、高校時代に感じていた、そんな街とは変わっていたということを痛感に覚えています。

何とか自分の力で宿毛市を変えたい思いで平成15年に市議会議員に立候補致しました。

現在宿毛市の人口は約21,500人となりました。

平成15年は約25,000人を超えていました。

一年間に約300人減となっているのが現状です。

少し分析しますと生れる人より亡くなるの方が150人程多くなっています。そして宿毛市から転出する人が転入する人よりも150人程多くなっています。

なぜ人口が減少するのが良くないのか、又減少を食い止めるにはどうすればよいのか。

人口が減少すればこの街は無くなり、消滅してしまいます。

日本創成会議の発表では2010年から2040年の30年間で20-30歳の出産適齢年代の女性が50%以上減少する市町村を消滅懸念自治体として示され、宿毛市の場合は69.1%の減少となっていて2040年までに消滅するとリストアップされています。

私が生まれた1968-2000年の間は宿毛市の人口は、ほとんど減少していません。実際に減少しているのはここ15年の間が急激に減少しています。

1980-2040年を比較するデータを見ると20-65歳の人と65歳以上の人を見るかを比較すると4.5人が1人を見る。

2040年になると20-65歳の人と65歳以上の人と同数となります。

問題なのは、以前は若い人が沢山いて高齢者が少なかった。今は若い人が少なく高齢者が多い現状で90歳以上の方が1980年は宿毛市で50人。

2040年には1,200人になるというデータが出ています。

この人口の減少の歯止めをどうするか、私の考えは、生まれる人を現在より100人増やします。そして宿毛市から転出する人よりも転入する人を50人増やします。

そうすれば人口の減少は止まります。

この出生率を上げるためにはどうすればいいか。一人の方が生む数を増やすのか生む人を増やすかです。

これは子育て支援と婚活、若者向けの定住策と最近話題の移住策が必要となって来ます。

土曜日の保育園の開園と小学校の土曜日の午前の再開と給食の提供。

現在宿毛市で実施中の放課後子供教室や学童保育を実施し働くお母さん達を支援できないかを考えています。

移住促進策としては移住者の方をバックアップする体制を作る必要があります。

都会に集中する人を地方に分散させる地方創生を利用してしっかりと取り組んでいかなければならないと考えています。

街づくりについては、よく市外の方々から聞くのは、愛媛県から宿毛市に入ると道路が汚い。道路の整備がされていない。これは移住策にマイナスとなります。

提案として各地域の方々に道路の管理をお願いします。

もちろん管理費又は木の苗や花の種を配布して植えていただく。そういった施策も良いのではないかと考えています。道の駅等の整備等の必要と思います。

最後に地方交付税は人口の割合で交付されます。

現在宿毛市の税収の約40%が地方交付税となっています。国勢調査の人口によって決定され人口が減少すれば交付税が減少します。

この人口減少の歯止めが重要課題であり宿毛市の未来明るいまちにする為にはしっかりと今後30年間の計画をもとに毎年毎年一歩ずつ進めて行くことが必要と思います。本日はありがとうございました。

■ニクニコ

中村RC浦田宏一様

いつもお世話になります。

2,000円

■出席報告

78.57%

